

# 船舶事故調査報告書

平成25年1月17日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成24年3月16日 11時20分ごろ
発生場所	鳥取県鳥取市酒津漁港 鳥取市所在の酒津灯台から真方位036°290m付近 （概位 北緯35°31.7′ 東経134°05.4′）
事故調査の経過	平成24年3月29日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 松島丸、0.3トン TT3-8856（漁船登録番号）、個人所有 5.38（Lr）m×1.47m×0.45m、FRP ガソリン機関（船外機）、30kW（動力漁船登録票による）、平成8年3月10日
乗組員等に関する情報	船長 男性 74歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成15年8月25日 免許証交付日 平成20年3月3日 （平成25年8月24日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船外機、魚群探知機の濡損等
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、作業員2人を乗せ、平成24年3月16日08時00分ごろ、酒津漁港の係留地を出発し、同港内の環境調査を開始した。 船長は、出港後間もなく、北方から約1mのうねりが入っていることに気付き、うねりが少し高いと感じていたが、天気が良く、風もほとんど吹いていなかった上、港内での調査だったことから、うねりを特に気に掛けなかった。 船長は、11時00分ごろ烏帽子岩の東方沖に至り、船体中央に置いた工具箱の上に腰を下ろし、対地速力を約2ノットとして左舷側に設置された舵輪を左手で持ち、手動操舵により南進を始めた。 酒津漁港の東側には、海岸から北方約200mのところには烏帽子岩があり、海岸と烏帽子岩との間には瀬が広がっており、瀬の周辺部に

	<p>おける水深は約0.5mである。</p> <p>作業員2人は、船首で調査を行っていた。</p> <p>本船は、1回目の南進を終えて反転し、北進したのち、再び反転して2回目の南進中、船長が、うねりが少し高くなっていることに気づき、作業員の同意を得て南進を中断し、引き返そうと左回頭を始めたところ、北方を向いたときに船首方から波高約2mのうねりを受けて甲板上に大量の海水が打ち込み、11時20分ごろゆっくりと右舷側に転覆した。</p> <p>船長及び作業員2人は、本船と共に海岸まで流され、作業員が防水仕様の携帯電話で海上保安庁に通報した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の中央期、うねり高さ 約2m</p> <p>3月16日 07時18分、鳥取県鳥取地区に強風注意報が発表された。</p>
その他の事項	<p>船長は、所属する漁業協同組合から斡旋を受け、日頃は漁業に専従していたが、一時的に事業者が実施する環境調査に従事した。</p> <p>本船は、小型船舶の船舶検査及び登録を受けておらず、臨時航行検査を受検していなかった。</p> <p>船長は、操業で沖に出るときは、出航前に必ず天気予報を確認していたが、本事故時は港内での調査だったので天気予報を確認せず、強風注意報が発表されていることを知らなかった。</p> <p>船長及び作業員は、救命胴衣を着用していた。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、酒津漁港において、北方から高さ約1mのうねりを受ける状況下、環境調査のために瀬の付近を南進中、船長が、うねりが少し高くなっていることに気づき、南進を中断して引き返そうとして左回頭して北方を向いたとき、船首方から高さ約2mのうねりを受けて甲板上に海水が打ち込んだことから、右舷側に転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、瀬の付近の水深約3mの所を航行していたことから、沖からのうねりが沖に比べて水深の浅くなった瀬の付近で高く隆起した可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、漁業以外に使用されていたことから、臨時航行検査を受検する必要があった。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、酒津漁港において、北方から高さ約1mのうねりを受ける状況下、環境調査のために瀬の付近を南進中、船長が、うねりが少し高くなっていることに気づき、南進を中断して引き返そう</p>

	<p>と左回頭して北方を向いたとき、船首方から高さ約2mのうねりを受けて甲板上に海水が打ち込んだため、右舷側に転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 瀬の付近の水深が浅い所を航行する際は、沖からの波やうねりが水深の浅くなった瀬の付近で高く隆起することがあるので、波やうねりの状況に注意すること。</li> <li>・ 出航に際し、天気予報を必ず確認すること。</li> </ul>